

- 問1 九州地方の周辺を流れる海流が、地域の生活や気候に与える影響について述べた文として、正しいものを選びなさい。 （2023年 佐賀県公立入試 類似）
1. 日本海を南下する対馬海流が、九州地方に乾燥した冷たい空気を運んでくるため、冬は降水量が非常に少なくなる。
 2. 北からのリマン海流が九州の日本海側に冷たい水を運ぶため、冬の九州北部は北海道と同じくらい寒冷になる。
 3. 太平洋側を流れる親潮の影響で霧が発生しやすくなり、夏でも気温があまり上がらない冷涼な気候となる。
 4. 赤道付近から北上してくる黒潮や対馬海流が暖かい空気を供給するため、冬でも比較的温暖な気候となる。
- 問2 沖縄県の人口動態を示した統計において、出生率が11.6、死亡率が8.1となっており、出生率が死亡率を大きく上回るデータが示されています。このような数値の背景にある、沖縄県の人口増加の主な要因を説明したものとして適切なものはどれですか。 （2018年 三重県公立入試 類似）
1. 観光産業の発展により、県外からの労働者が転入し続ける社会的増加が主な要因であるため
 2. 若年層の他県への流出が止まり、合計特殊出生率が急激に低下したため
 3. 他県から移住してくる高齢者が多いため、死亡率が全国で最も低くなっているため
 4. 出生率が全国的に見ても高く、死亡数を上回る自然的増加が続いているため
- 問3 九州地方にある、温泉地として全国的に有名な観光都市の産業構造や社会状況について説明した文として、最も適切なものはどれですか。 （2019年 佐賀県公立入試 類似）
1. 広大な土地を活かした大規模な農業や畜産業が盛んであるため、第1次産業の就業者割合が他の都市に比べて高く、若者の流入が続いている。
 2. 臨海部に鉄鋼業や自動車産業などの大規模な工場が集積しているため、第2次産業の就業者割合が最も高く、生産年齢人口の割合も非常に高い。
 3. 県庁所在地として行政機能や情報通信業が集中しているため、第3次産業の割合は高いが、都市開発により子育て世代の人口が増加している。
 4. 旅館や飲食店などの観光関連のサービス業に従事する人が多いため、第3次産業の就業人口割合が極めて高いが、少子高齢化や人口減少という課題も抱えている。
- 問4 宮崎県では、農業産出額の約3分の2を畜産が占めています。このように宮崎県で肉用牛、豚、鶏などの飼育が盛んになった背景として、土地の性質に触れた説明として最も適切なものを選びなさい。 （2024年 茨城県公立入試 類似）
1. 大消費地である東京から遠いため、野菜よりも保存や加工がしやすい畜産物の生産に力を入れた。
 2. シラス台地が広がり水持ちが悪く稲作に適さない土地が多いため、広大な土地を活用した畜産が発展した。
 3. 冬でも温暖な気候を利用して、家畜の飼育となる穀物を二毛作で大量に生産できる環境があったため。
 4. 平野部が少なく耕地面積が限られているため、狭い土地でも効率よく収益が上がる畜産業に特化した。
- 問5 宮崎県において、冬でも温暖な気候を活かした農業が発達した理由を、海流の性質と地形の観点から説明した記述として最も適切なものはどれですか。 （2021年 東京都公立入試 類似）
1. 沖合を流れる寒流が夏場の気温上昇を抑える一方で、南側の平野部が日射を長時間受けることで年間平均気温が高まるため。
 2. 寒流と暖流がぶつかる潮目にあたるため海面温度が安定し、平野部を流れる河川が常に霧を発生させて作物を保護するため。
 3. 北部の山地から吹き下ろす乾燥した冷たい風が、暖流の湿った空気と混ざり合うことで、ビニールハウス内の温度を一定に保つため。
 4. 沖合を流れる暖流が周囲の気温を下げにくくし、さらに北部の山地が冬の冷たい季節風を遮る役割を果たしているため。
- 問6 沖縄県の伝統的な住居の特徴について述べた次の文のうち、内容が正しいものはどれですか。 （2018年 山形県公立入試 類似）
1. 夏の湿気や洪水による浸水を防ぐため、床を高くした「高床」の構造にしている。
 2. 屋根の瓦の継ぎ目を漆喰（しっくい）で塗り固め、強風への対策としている。
 3. 豪雪による被害を避けるため、屋根の傾斜を急にした「合掌造り」を採用している。
 4. 北西からの冷たい季節風を防ぐため、家の北側に「屋敷林」を設けている。
- 問7 1978年から2018年にかけての沖縄県の観光に関する統計資料を分析すると、観光客数と観光収入の双方が著しい成長を見せていることがわかります。この約40年間の変化について、数値の推移から読み取れる事実として最も適切なものはどれですか。 （2024年 群馬県公立入試 類似）
1. 1978年と比較して、観光客数の増加率よりも観光収入の増加率が極端に低くなっており、観光産業の経済への影響力は年々低下している。
 2. 観光客数はこの期間に8倍以上の増加率を記録しており、それまでの主要産業であった農業の生産額を統計開始直後に上回った。
 3. 観光客数は大幅に増加したものの、観光客1人あたりの消費額が急減したため、観光収入の総額は1978年当時の水準を維持するにとどまった。
 4. 観光客数は1978年の約140万人から2018年には約1000万人に達しており、観光客数の増加に連動して観光収入も大きく拡大した。
- 問8 鹿児島県や宮崎県などを中心に、肉用牛や豚、鶏などの飼育が盛んな地域が九州地方です。この地方の農業産出額における品目別割合において、最も大きな割合を占めている部門はどれですか。 （2025年 岩手県公立入試 類似）
1. 野菜
 2. 果実
 3. 米
 4. 畜産
- 問9 九州地方の阿蘇山などで見られる、火山の噴火によって地下のマグマが噴出した後、山頂部が陥没するなどして形成された大規模な凹地を何といいますか。 （2019年 愛知県公立入試 類似）
1. リアス海岸
 2. カルデラ
 3. 楯状火山
 4. シラス台地
- 問10 高知県や宮崎県では、冬季でも温暖な気候とビニールハウスなどの施設を利用することで、ピーマンやナスなどの作物を本来の時期よりも早く栽培・収穫して出荷しています。このような栽培方法を何といいますか。 （2020年 大分県公立入試 類似）
1. 促成栽培
 2. 抑制栽培
 3. 露地栽培
 4. 二毛作
- 問11 中国の経済成長と沖縄観光の関連について述べた次の文のうち、2010年当時の統計的な事実に基づいた正しい記述はどれですか。 （2014年 沖縄県公立入試 類似）
1. 中国のGDPが世界第3位に低下した時期に、沖縄を訪れる外国人観光客の中で中国人の割合が最も低くなった。
 2. 中国のGDPが日本を追い抜き世界第2位となった時期に、沖縄を訪れる中国人観光客は1990年代末の約20倍以上に増加した。
 3. 中国がGDPで世界第1位を維持し続けた結果、1990年代から毎年10万人以上の中国人観光客が沖縄を訪れていた。
 4. 中国の生活水準が低下したため、沖縄を訪れる中国人観光客の数は1990年代から2010年にかけて減少に転じた。
- 問12 日本の品目別の食料自給率と小麦生産の実態について述べた文として、最も適切なものはどれですか。 （2021年 長野県公立入試 類似）
1. 日本の小麦自給率は極めて低いため、国内での生産は北海道のみに限定されており、九州地方などの他の地域ではほとんど生産されていない。
 2. 近年、米の自給率は小麦と同程度の10%から20%まで急落しているが、それを補うために福岡県や熊本県といった九州地方での小麦増産が進められている。
 3. 米の自給率は100%に近い水準を維持しているのに対し、小麦の自給率は10%から20%の間と低く、国内では北海道のほか、九州地方の福岡県や佐賀県などが主要な産地となっている。
 4. 小麦は米と同様に自給率が非常に高く、国内の需要をほぼ賄うことができており、九州地方の全県が収穫量で全国トップ10に入っている。

答え合わせ・解説

問1	答え 4 赤道付近から北上してくる黒潮や対馬海流が暖かい空気を供給するため、冬でも比較的温暖な気候となる。	九州地方は、太平洋側に黒潮（日本海流）、日本海側に対馬海流という2つの暖流が流れています。暖流は周囲の空気を暖める性質があるため、これらの海流の影響を受ける九州地方の沿岸部では、冬でも氷点下になる日が少なく、温暖な気候が保たれます。選択肢にあるリマン海流や親潮は寒流であり、これらは主に北日本などの気候に影響を与えるものです。
問2	答え 4 出生率が全国的に見ても高く、死亡数を上回る自然的増加が続いているため	沖縄県は伝統的に出生率が高い傾向にあり、日本の多くの自治体で出生数が死亡数を下回る「自然的減少」が深刻化する中で、出生数が死亡数を上回る「自然的増加」を維持している稀な例です。問題文の統計値からも、死亡率に対して出生率が高いことが人口を押し上げる要因になっていることが読み取れます。沖縄県の人口問題を考える際は、長寿といったイメージに惑わされず、この「高い出生率による自然的増加」を正しく把握する必要があります。
問3	答え 4 旅館や飲食店などの観光関連のサービス業に従事する人が多いため、第3次産業の就業人口割合が極めて高いが、少子高齢化や人口減少という課題も抱えている。	観光都市では宿泊業や飲食業といったサービス業（第3次産業）が経済の中心となるため、その就業者割合は他産業に比べて圧倒的に高くなります。一方で、地方の観光地は若者の都市部への流出といった問題を抱えていることが多く、統計上も高齢者割合（65歳以上）が30%を超えるなど、人口減少と高齢化が顕著に表れる傾向があります。
問4	答え 2 シラス台地が広がり水持ちが悪く稲作に適さない土地が多いため、広大な土地を活用した畜産が発展した。	宮崎県を含む南九州には、火山の噴出物が積み重なってできたシラス台地が広がっています。シラス台地は水はけが良すぎて稲作には不向きであったため、古くから畑作や、広大な土地を必要とする畜産業が発展しました。現在では、宮崎県は肉用牛、豚、ブロイラー（鶏）のいずれも全国有数の産出額を誇る「畜産王国」となっています。
問5	答え 4 沖合を流れる暖流が周囲の気温を下げにくくし、さらに北部の山地が冬の冷たい季節風を遮る役割を果たしているため。	宮崎県が冬でも温暖なのは、低緯度に位置することに加え、太平洋を流れる暖流（黒潮）が熱を運んでくるためです。また、北部にそびえる山地が、冬に大陸から吹き付ける冷たい北西の季節風を遮る防壁のような役割を果たしていることも、平野部における温暖な気候の維持に大きく貢献しています。この環境が、冬場に野菜を作る促成栽培などの園芸農業を支えています。
問6	答え 2 屋根の瓦の継ぎ目を漆喰（しっくい）で塗り固め、強風への対策としている。	南西諸島の住居における漆喰や石垣の使用は、台風による強風から生活を守るための工夫です。選択肢にある「屋敷林」は主に関東地方や東北地方、砺波平野などで季節風や雪を防ぐために見られる工夫であり、「合掌造り」は白川郷などの豪雪地帯で見られる形式です。沖縄の住居は、現地のサンゴ礁を石垣に活用するなど、地元の資源を環境適応に有効利用している点に特色があります。
問7	答え 4 観光客数は1978年の約140万人から2018年には約1000万人に達しており、観光客数の増加に連動して観光収入も大きく拡大した。	1978年から2018年にかけての統計を見ると、沖縄を訪れる観光客数は約7倍強（140万人から約1000万人）に増加しており、これに伴って観光収入も右肩上がりの推移を見せています。選択肢にある「8倍以上の増加」は、 $1000 \div 140 \approx 7.14$ 倍であることから統計上の事実とは言えません。この観光産業の成長により、沖縄県はサービス業を中心とした第3次産業が経済の柱となっています。
問8	答え 4 畜産	九州地方ではシラス台地などの地形や温暖な気候を生かして、鹿児島県や宮崎県を中心に肉用牛や豚、鶏などを育てる産業が発達しています。そのため、農業産出額の品目別割合においても畜産の占める割合が最も大きくなっています。
問9	答え 2 カルデラ	阿蘇山に代表されるこの地形は、大規模な噴火の際に噴火口周辺が陥没することで生まれます。阿蘇山のカルデラは世界最大級の規模を誇り、その内部には多くの人々が住み、鉄道や国道も通っています。シラス台地は火山灰が堆積してできた地形であり、リアス海岸は沈水海岸の一種であるため、形成過程が異なります。
問10	答え 1 促成栽培	宮崎県や高知県などの黒潮の影響を受ける温暖な地域では、冬でも暖かい気候を活かし、ビニールハウスなどの施設を用いて成長を早める栽培が行われています。これにより、他の地域での生産が少ない冬から春にかけて農作物を出荷でき、市場で高い価格で販売することが可能になります。
問11	答え 2 中国のGDPが日本を追い抜き世界第2位となった時期に、沖縄を訪れる中国人観光客は1990年代末の約20倍以上に増加した。	2010年は、中国のGDP（国内総生産）が日本を上回り、世界第2位の経済大国となった節目の年です。この時期、沖縄県を訪れた中国人観光客数は、1998年の474人から2010年には10,888人へと急増しており、約12年間で20倍を超える規模に拡大しました。これは、中国の経済成長が近隣地域への観光需要に直結していることを示しています。
問12	答え 3 米の自給率は100%に近い水準を維持しているのに対し、小麦の自給率は10%から20%の間と低く、国内では北海道のほか、九州地方の福岡県や佐賀県などが主要な産地となっている。	日本の食料自給率は品目によって大きな差があります。主食である米は国内でほぼ自給できていますが、小麦は海外からの輸入に頼る割合が高く、自給率は10%から20%程度の低い水準にとどまっています。しかし、国内での生産も継続されており、広大な農地を持つ北海道が最大の産地であるほか、九州地方の福岡県、佐賀県、熊本県などは全国的に見ても非常に高い収穫量を誇る重要な産地としての役割を担っています。